

教育研究業績書

奥田 修一郎

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表 雑誌又は発表 学会等の名称	概 要	編者・著者名（共著の場合 のみ記入）	該当 頁数
『「思考力・判断力・表現力」をつける中学校公民 授業モデル』	共著	平成23年10月	明治図書	中学校公民で「思考力・判断力・表現力」をつける授業モデルを、内容・方法・指導上の工夫についてわかりやすくまとめたもの。	編者 小原友行、峯明秀	10頁
『中学社会科“アクティブ・ラーニング”発問174』	共著	平成28年4月	学芸みらい社	地理・歴史・公民の各単元の中で、生徒が事実に基づき深い学びに向かえるような、また、アクティブラーニングに発展できるような大発問（問い）とは何かを考察して行った授業実践をまとめた。	編者：峯明秀、 執筆：峯明秀、阿部靖、 奥田修一郎他	10頁
『新中学校社会の定期テスト』	共著	平成29年4月	学芸みらい社	子どもの学びを測るためだけではなく、子どもの意欲を引き出す、また、深い学びにつながる評価問題はどのように作成すればよいか、具体例を示したものの。	編者：峯明秀 執筆 筆： 峯明秀、泉谷章仁、 奥田修一郎他	8頁
『社会系教科教育学研究のブレイクスルー』	共著	令和元年11月	風間書房	教科教育学の理論研究と学校現場における日々の授業実践との間の溝を埋めるべく、①カリキュラム・マネジメント、②資質・能力育成、③授業デザイン論、④評価研究、⑤教師教育の5つの鍵概念を示して今後の研究や実践の在り方を提案した。	編者 社会系教科教育学会、 執筆：星村平和、岩田一彦、 中村哲、峯明秀、奥田修一郎他	12頁
『経済教育実践論序説』	共著	令和2年5月	大学出版会	現場教育と研究者が長年の研究成果をまとめたもの。中学校の経済教育を起点として、前後の小学校、高等学校の実践例を集め、鍛えるべき経済的な見方・考え方とは何かを考察し、子どもたちが主体的に学べる経済教育の在り方を問うもの。	編者 大阪教育大学経済 教育研究会 執筆：裴光雄、高山新、 岩田年浩、奥田修一郎	41頁

『「公共性」を育む経済教育—正義を視点においた「公的年金問題」の単元開発』	単著	平成20年3月	経済教育学会『経済教育』第27号	現在の公的年金制度の目的・仕組みをまずとらえ、今後の年金制度設計をする上で、どんな視点が大切になるのかを、ロールズの無知のヴェールを援用したワークショップなどから考察していった授業実践をまとめ、分析した。		8頁
「社会科の「活用する」力の育成と評価に関する研究」	共著	平成24年9月	財団法人日本教材文化研究財団	小中を通じて、「活用する」力をどのように育成すればいいのかを、先行実践と評価問題を分析した上で、授業提案（経済分野）を行った。	共著者：原田智仁，峯明秀，中本和彦，奥田修一郎他	22頁
『「習得」「活用」「探究」をすすめる経済教育の実践研究』	単著	平成22年3月	経済教育学会『経済教育』第29号	子ども達の知的好奇心を刺激し、知識をさらに活用していけるようにするための教材はどうつくればいいのかを考え、独自に開発したワークショップ型教材をマトリックスで分析し、その有効性を省察したもの。		8頁
『主体的かつ深い学びをうながす経済学習実践考察』	単著	平成30年9月	経済教育学会『経済教育』第37号	「主体的で対話的な深い学び」を進めるために、「知る」「わかる」「使える」の学習段階と「主体的」「対話的」「深い学び」の各層との関連づけをした表を独自に開発し授業分析をおこなったもの。		5頁
『「見方・考え方」を働かせて探究する学習：小学校社会科・産業学習の授業開発』	単著	平成30年3月	関西教職教育研究会『関西教職教育研究』第2号	次期学習指導要領で提示されている「見方・考え方」を働かせながらの探究する学習を、「食品工業」の単元学習7時間プランから提案したものであり、また、子どもが主体的に問いを生み出せるような教材の在り方も考察した。		15頁
『経済単元の習得確認テスト結果と授業改善—中学生を対象に—』	共著	平成30年9月	経済教育学会『経済教育』第37号	経済概念がどのくらい習得されたかを確認する評価問題を作成。2校で同じ問題を実施し、正答率のちがいを明らかにし、授業改善とつなげる提案をした。	共著者：乾真佐子，裴光雄，関本祐希、	3頁

『現代社会の見方・考え方をきたえる小学校の経済教育の授業提案』	単著	令和元年9月	経済教育学会『経済教育』第38号	小学校社会科での「見方・考え方」と中学校公民的分野のそれとのちがいを明らかにし、小学校と中学校の学びの接続をはかるために、どんな観点が必要なのか、鍛えるべき「見方・考え方」は何かを、授業案を提示する中で考察したもの。		6頁
『中学校社会科公民的分野：「現代の雇用」に関する授業開発－「外国人材の受け入れ問題」に着目して－』	単著	令和2年2月	大阪教育大学初等教育講座「実践学校教育研究」第22号	公民的分野全体の外国人（外国人労働者）/移民を学習する単元構成案と経済分野での「外国人材受け入れ問題」を考察し表現できる授業案を提示した。		10頁
『「見方・考え方」を鍛えるための小学校社会科授業内容－リヴィオイングを活用して行う大学の模擬授業を事例として－』	共著	令和2年3月	武庫川女子大学「武庫川女子大学大学院教育学研究論集」第15号	次の仮説（学生が模擬授業を行う際に、リヴィオイングを活用した指導を行うことで授業内容が活性化するのではないか）を、実際の模擬授業分析やメンタリング、振り返りシートから検証したもの。	共著者：本多千明	4頁
『小中学校の歴史学習単元開発－「コレラ感染をくい止める！－明治の人々の生活はどのように変わったのか－』	単著	令和2年6月	関西教職教育研究会「関西教職教育研究」第8号	感染症の広がり社会に与えた影響や、拡大した背景と歴史的事項との関連を考察する授業案を提示した。題材は明治期に大流行した「コレラ」である。この感染症がもたらした変化と影響を、社会面だけでなく外交面（条約改正）からもとらえられるようにした。また、WITH コロナにもつなげられる単元構成案も提示したもの。		15頁
『領域「人間関係」とスタートカリキュラムの「学びに向かう力」の見取り方－3つのTと社会情動的コンピテンスに着目して、幼小の接続を考える－』	単著	平成31年3月	関西教職教育研究会「関西教職教育研究」第4号	資質・能力の一つの柱である「学びに向かう力」に着目して、この言葉が出てきた背景をさぐるとともに、改訂「幼稚園教育要領」に明記されている「10の姿」で育みたいスキル（コンピテンス）は何か、どのように見取ればいいのか、幼小接続で大切なことは何かを考察した。		12頁

『幼小連携からみた幼稚園領域と生活科・総合的学習の学び』	共著	令和2年2月	大阪千代田短期大学「紀要」第49号	学習指導要領の改定に伴い、幼稚園領域から小学校教科学習との連携を見直したもの。特に非認知的能力や「学びに向かう力」の観点から、学びの連続の必要性を明らかにした。	共著者：村尾聡，松浦善満，岡本正志	11頁
『領域「環境」の指導法に対する教材研究のあり方と取組ー変わりゆく社会環境に視点を置いてー』	単著	平成31年3月	関西教職教育研究会「関西教職教育研究」第7号	領域「環境」が扱うのは「身近な環境」である。しかし、この「環境」は大きく変わってきている。特に、「社会環境」の変化は著しい。そのため、まず現代社会環境をとらえる3つの側面（少子高齢化、グローバル化、情報化）から考察し、その学びをいかしたお店屋さんごっこを考え制作していった授業の様子をまとめた。		13頁
『「総合的な学習の時間」での探究的な学習を創り出すためにー授業づくりの課題に焦点をあててー』	単著	令和2年11月	関西教職教育研究会「関西教職教育研究」第9号	総合的な学習では、「探究的な学習」が求められている。その理由を、まず、学力論の観点から学習指導要領の変遷を整理し、次に学力論の原理変換という視点、さらには状況的な学びという面から考察した。それを踏まえて探究的な学びをすすめる上での課題とは何かを先行研究から明らかにした。		15頁
『公民的分野の授業開発ー「AI時代の働き方の手がかりをつくる」ー』	単著	令和3年4月	関西教職教育研究会「関西教職教育研究」第10号	少子高齢化による労働供給制約や様々な労働問題の処方薬になるのではないかと注目されているのが、ロボット・AIの活用である。一方、AIの導入により仕事が奪われるリスクが語られてもきた。本研究では、AIとは何かを知り、雇用・労働面での変化を捉え、AIとの付き合い方を考察できる授業案を示した。		10頁

「中学校公民的分野の授業開発-非正規雇用に着目して-」	単著	令和3年12月	『経済教育』第40号	単元を貫く探究課題として「正規雇用・非正規雇用から未来の働き方を考える」を設定し、労働問題をできるだけ生徒に身近なものにする工夫、問題点の多面的な分析や解決策の多角的な理解を盛り込んだ授業案を提示した。		6頁
「地域体験」における学生の学び I-非認知能力に着目して-	共著	令和4年3月	綜芸 高野山 大学教育学科 紀要創刊号	教育学科の科目の一つである「地域体験」での学生の学びを評価するにあたって「非認知能力」に着目した。学生の自己評価の分析から「他者とつながる力」「自分を高める力」「自分と向き合う力」が高まったことが結論付けられた。	共著者：松本歩子，村尾聡，柳原高文	15頁
「社会的な見方・考え方」を働かせる授業づくり-地域教材に着目して-	単著	令和4年3月	綜芸 高野山 大学教育学科 紀要創刊号	本論文は、講義「社会科内容論」でおこなった授業実践を省察したものである。特に新学習指導要領で求められている「社会的な見方・考え方」を働かせる授業づくりとはどんなものかを理解し、どのように授業に生かしていけばいいのかを地域教材から考察したものの。		11頁
研究ノート『ドラえもん』を学習材に活用する～非認知能力に着目して～	単著	令和4年6月	関西教職教育研究会「関西教職教育研究」第11号	マンガを学習材に活用していくために、どんな研究や議論がこれまで行われてきたかを概観し、授業構想を提示した。学習材の可能性を探る素材としては「ドラえもん」を扱った。具体的には「非認知能力」の考え方を理解するための教材、自己成長とは何かを考えるための教材としての価値を考察した。		18頁